

令和4年3月30日

沖縄県議会議長

赤 嶺 昇 殿

派 遣 議 員

団 長 照 屋 守 之

照 屋 大 河

「米軍属による強制性交等未遂事件に関する意見書」及び「同抗議決議」の要請議員団報告書

上記のことについて、別紙のとおり報告します。

別紙

「米軍属による強制性交等未遂事件に関する意見書」及び「同抗議決議」の要請議員団報告書

1 派遣議員

団長 照屋守之
照屋大河

2 派遣目的

令和3年第6回議会（臨時会）の8月19日の会議において議決された上記の意見書及び同抗議決議の趣旨を関係要路に要請するため。

3 派遣期間

令和3年8月24日（火）及び27日（金）（2日間）

4 要請日程

別紙のとおり

5 要請概要

団長が意見書及び同抗議決議の趣旨を説明した後、被害者への謝罪及び完全な補償並びに丁寧な精神的ケアの実施、米軍人・軍属等の綱紀粛正の徹底と実効性のある再発防止策の策定と公表、軍属等の夜間外出規制、即応性のある実務者協議の場の設置、日米地位協定の抜本的改定等について強く要請した。

6 要請における対応者の主な発言及び質疑応答の概要（要請順）

(1) 外務省沖縄事務所 特命全権大使 橋本 尚文

非常に悪質な事件だと認識しており、米側に対して捜査への協力、情報提供、再発防止に向けた実質的な効果のある対策について、東京及び地元でもハイレベルで強く遺憾である旨を申し入れたところである。米側としても、非常に深刻に受け止めており、在日米軍及び地元の警察とも捜査について協力をしており、公務外の事件を扱うCWTに関し、具体的な成果が上がるような協議にすべく関係者と複数回にわたり具体的な協議をし、様々な意見を取りまとめようとしている。

軍人にはリバティー制度が適用され夜間の外出規制があるが、米軍側からは、軍属等についてもこの制度を尊重するように対応しているということであり、米軍側にさらなる努力を働きかけていきたい。

(主な質疑応答)

Q 綱紀粛正と具体的な実効性のある再発防止の中身を外務省は把握しているか。

A リバティー制度の中身については、着任後の研修や責任ある意思等の義務づけ、あるいは外出禁止時間を設けるなどと聞いている。

Q 被害者への補償や精神的なケアについてはどうか。当事者任せにせず、日本政府としても強く関わっていくべきではないか。

A 基本的には被害者と加害者間の話になるが、一義的には米軍のほうでしかるべく対応していきたいとの姿勢が示されている。我々も当事者任せではなく、必要に応じて沖縄防衛局あるいは私どもも連携しつつ支援していきたい。

Q 米軍としても軍属にもリバティー制度を尊重させているとのことだが、この事件後も米軍に関する飲酒絡みの事件が発生しており、一体どうなっているんだというのが県民の思いである。

実務者協議を何とかしてほしい。最近我々も、もう何回抗議しに来ているのか。具体的に実務者でどういう協議をして、これまでの反省も含めてどうなっているのか、具体的な綱紀粛正とは何か、再発防止策は何か、誰が話し合っ、いつからどうなるのかという、その具体的な部分がない。CWTはいろいろな関係団体の方々が入っているがゆえに意思統一に時間がかかっているようだが、県民が求めているのは即効性のある実務者協議の場である。

A おっしゃるとおり実務者間で中身のある実際の効果が見える対策を協議するというのは重要である。CWTあるいはそれ以外の形でも必要な対策を取れるように、そういう努力は引き続き行って、できるだけ早い段階で具体的な協議を開催できればと思う。

Q 軍属の管轄ということで今回の抗議先に米陸・空軍エクステンジサービス(AAFES)の司令官を入れてあるが、この太平洋管区本部司令官というものは、外務省とはどういう関係、仕組みがあるのか。その都度抗議先が異なると県民の思いや懸念を伝達すること自体が薄らいでしまわないか。

A 仕組み等はないが一AAFESは、県が抗議先について米軍に連絡を取った際、ここが所属機関なのでそちらのほうにしてくれということで米軍側がやってきた

組織だと思う。我々としては、しょっぱなに在沖米軍の一番トップに抗議をして、向こうも深刻に受け止めるということで対応もすると言ってきたところである。

(2) 沖縄防衛局 局長 小野 功雄

本件は大変悪質な事件であり、被害者をはじめ沖縄県民に多大な不安と御懸念を与えるものであり極めて遺憾に思っている。沖縄防衛局としても、直ちに米側に対して遺憾の意と隊員の教育、綱紀粛正及び実効性のある再発防止策の実施を申し入れ、被害者に誠意を持って対応するよう強く要請したところである。当局としても、被害者の心情に配慮しながら、関係機関ともしっかり連携を取りつつ適切に対応してまいりたい。

いわゆるリバティー制度は事前研修、米軍施設区域の外の公共の場における飲酒制限、外出時間の制限、外出時の同伴者義務づけを内容とするが、米軍の説明では、軍属、契約業者及びその家族はこの制度を尊重することが奨励されているとのことであり、米軍側に事件等の防止に向けた対策を浸透させるよう、より一層の努力を求めている。即応性のある実務者協議の場を設けることについては、現在、外務省沖縄事務所が中心となり、関係者の間で調整中である。

日米地位協定は合意議事録を含んだ大きな法的な枠組みであり、政府としては、日米地位協定についてこれまで手当てすべき事項の性格に応じて効果的かつ機敏に対応できる最適な取組を通じ、一つ一つの具体的な問題に対応してきているところであり、引き続きそのような取組を積み上げることで日米地位協定のあるべき姿を不断に追求していく考えである。

(主な質疑応答)

Q 被害者への謝罪、補償、精神的ケアについて、当事者同士ではなかなか話合いができないと思われるが、県も国も防衛局も一緒に入ってしっかり対応してもらいたい。

A まさにこうしたところは米軍において対応すべきだろうと考えおり、しっかりと申し入れつつ対応していきたい。

Q 私ども県議会は特にこういうことをずっと求めつつも、なかなか事件・事故のその後の具体的な報告を受けたことがあまり記憶にない。我々は監視—議決する機関として、事件・事故があるたびに抗議要請ということで求めるだけでは厳しい。非常にジレンマを感じながら今抗議をしている。県民が求めているのはとに

かく即効性のある実務者協議—その中で綱紀肅正とか再発防止についての具体的な内容を詰めて、県民に明らかにしてほしい。

A ワーキングチームの開催について、今どういう形で対応していくのかを外務省沖縄事務所を中心になって米側と調整を行っているところである。我々としても執行機関、行政機関として米側やお互いに連携を取りながら、必要なものはしっかりと申入れをした上で実効性が上がるように対応していきたい。

Q 女性に対する性的な暴力ということで非常に悪質な事件である。事件・事故の防止のためには米側の協力が必要だからこそそれを促すというだけではなくて、もうそれを超えて制度や仕組みの中で—具体的には軍属に対するリバティー制度の適用、あるいは日米地位協定の改定等を含めて取り組まないと、実効性の確保につながらないと県民は思っている。それぐらいの事件だと受け止めるべきだ。

A 我々としても本事件は非常に悪質であるとの認識に相違はない。今御指摘があった点は非常に重いことだと思っており、改めて米側にもしっかりと伝えて、関係機関と連携して対応していきたい。

Q 来年は復帰50年という今の時点にあって、通報体制の強化を言わなければいけない、あるいはワーキングチームの開催を求めなければいけないというのは、非常におかしいと思う。制度や規則の中で皆さんが基地を提供するのであれば、そういったことをしっかり県民に示していく。そしてこれだけの事件・事故が繰り返されるのであれば、沖縄から分母を減らす、基地を減らしていくということを政府としてやっていくという強い決意がこの50年の節目を前に必要だと思う。

(3) 米陸・空軍エクステンジサービス (AAFE S) 太平洋管区本部

司令官代理 ラネル・ピケット中佐

(在日米軍沖縄調整事務所 マイケル・D・ワイズ大佐 も同席)

今回の犯罪事案については弁解の余地はなく、被害者が苦しんでいるであろうことにおわび申し上げる。大変残念で申し訳ない。AAFE Sとしても深刻に受け止め、従業員教育をはじめ、あらゆる努力を行う所存である。

連邦法をはじめ米軍のリバティー制度の内容については従業員にも強く推奨しているところである。実務者協議については、在沖米軍沖縄調整事務所や外務省とともに、新たな協議体の検討を行っている。そのような場を通して前向きに継続的に有益なアイデア等を出し合い、真摯に対応していきたい。本日の内容については、上層部にも伝えたい。

(主な質疑応答)

Q 地域の平和に貢献する米軍・軍属の存在自体は否定しないが、このような事件が起こることで米軍・軍属への不信感が生まれてしまう。米軍もプライドを持ってやっているはずで、そうであれば、トラブルの防止、補償、謝罪もしっかりと行うべきである。

A AAFESは地位協定に基づき業務を行っており、沖縄の経済にも貢献していると自負しているが、全ての従業員の不法行為、犯罪行為については真摯に受け止め、あらゆるレベルで対処し是正措置を行っているところである。

また、各軍での追加の研修も行っている。各軍人は米国の代表であり名誉及び尊厳を持って行動するよう注意喚起している。4月は防止月間として各軍で結集して対処し、上層幹部が集まって宣言書に署名した。来日時の日本文化への理解や尊厳についての教育等について、1年間かけて定着するための訓練を実施している。

Q 米軍の努力は分かるが、県民には伝わっていない。CWT等新たな協議の場で協議するだけでなく、具体的な防止策や発生時の対応について示してほしい。

A 4月に県知事公室長や外務省とも話し合っている。有益性、透明性を持って議論していく場を望んでいる。

Q 非常に悪質な事案であり被害者にとっては一生の傷となる。補償や精神的ケアなど一義的な責任は米軍にあるはずで、しっかりと対応していただきたい。米軍があるがゆえに事件・事故が起こる。沖縄の過重な負担に県民が苦しんでいることを理解してほしい。

A 被害者に対して申し訳ない気持ちでいっぱいである。警察にも協力しながら対応していきたい。

(4) 在沖米国総領事館 総領事 マシュー・ドルボ

このような状況で初めてお会いすることについておわびしたい。地元の御懸念を直接聞くことは重要なことである。今回のひどい事件は決して許されるものではなく、県民に不安を与えたことについて心から申し訳なく思う。被害者や家族に与えた恐怖を理解している。AAFES、米軍、政府も含めて真摯に受け止め協力して対応していきたい。

(主な質疑応答)

Q 補償や精神的ケアが大事であり、全面的に米国政府に対応してもらいたい。

A 指摘していただきありがたい。対応の一番のポイントでありAAFESも含めて十分理解している。この場で具体的にコメントはできないが、米軍はもちろん東京やワシントンにも伝えていきたい。

Q 即応性のある実務者協議の場を設け、事件・事故を防止するための協議を米国挙げてやってほしい。

A 米国政府で働く者として、あらゆるジェンダーへの性的な暴力についての防止に努めたい。AFFESとして本件への対処をどうするか注視したい。CWTの次回開催について調整中であるが、そのような場で具体的な提案があれば聞いていきたい。またCWT以外の協議の場についても検討していきたい。

Q 総領事も娘さんをお持ちと聞いた、事件の深刻さは分かると思う。県内では暴行、殺人、遺棄の事件が繰り返されている、総領事においても改めて速やかな改善について強く働きかけてほしい。

A 個人的にも決して許されるものではないと認識している。私の持てる力を生かしながら対応していきたい。

Q 米国は自由、人権普及の優れた国であり、米軍や軍属も含めてそういう高いプライドを有する国民だと思う。復帰50年プラス27年の統治の歴史も踏まえて、そのようなプライドを持って、県民に寄り添っていくような仕組みの構築をお願いしたい。

A ハートフルで誠実な発言に素直に感謝申し上げる。努力したい。

以 上

別紙

要 請 日 程

月 日	曜日	時間	要 請 先 等	場 所
令和3年 8月24日	火	10:20 ） 10:40	外務省沖縄事務所長 (応対者:橋本尚文 特命全権大使 〈沖縄担当〉)	外務省沖縄 事務所会議 室
		11:30 ） 11:45	沖縄防衛局長 (応対者:小野功雄 局長)	沖縄防衛局 会議室
令和3年 8月27日	金	10:00 ） 10:15	米陸・空軍エクスチェンジサービス(AAFES) 太平洋管区本部司令官 (応対者:ラネル・ピケット 大佐〈司令官代理〉)	キャンプ瑞 慶覧太平洋 管区本部内 会議室
		11:30 ） 11:45	在沖米国総領事 (応対者:マシュー・ドルボ 総領事)	在沖米国領 事館総領事 室